

NEWSLETTER

vol.1
2015

特集

国際機関

世界を助けるお金の活かし方





3 NCGM 国際医療協力局 NEW TOPICS

4 **国際機関**
世界を助けるお金の活かし方

5 国際機関ってなんだ？

保健医療分野の国際機関

6 **グローバルファンド**
ー 世界エイズ・結核・マラリア対策基金 ー

8 本当に必要な人のためにお金が活かされるには？
グローバルファンド技術審査委員の仕事

11 保健医療分野の国際機関
世界保健機関 (WHO)

12 特別インタビュー：世界に挑む人
限りある資金でより多くの命を救うために

國井 修 世界エイズ・結核・マラリア対策基金
[通称：グローバルファンド]
戦略投資効果局長

待ちに待った春ですね。
おかげさまで
NEWSLETTER は
創刊 5 周年を迎えました。
気分も新たに
わたくし、
グローバルヘルス案内人、
ハチ P が
"ゆる～くて分かりやすい"
をモットーに
世界の健康問題のこと
お伝えしましょう♪

18 **NCGM の研修で学ぼう !!**

20 連載マンガ
ハケン専門家日記 井上きみどり

22 グローバルヘルス・カフェ

23 海の向こうの風景

24 EVENT information

表紙：WHO 世界保健総会

『ラオスフェスティバル 2015』にブース出展します

今年は日本とラオスの外交関係が樹立して 60 周年。それを記念して 5 月 23 日(土)、24 日(日)の 2 日間、代々木公園にて「ラオスフェスティバル」が開催されます。ラオス料理や物産展をはじめ、ダンスや音楽のステージイベント、国際貢献・交流団体の活動紹介など、ラオスをまるごと楽しめる企画が盛りだくさんです。ラオスで 20 年以上にわたって活動を続ける国際医療協力局も、ブースを出展します。ぜひご来場ください。



ラオスフェスティバル
2015 年 5 月 23 日(土)・24 日(日)
10:00-19:00 (雨天決行)
代々木公園イベント広場 (東京都渋谷区)
入場無料
[www.http://www.laos-festival.info](http://www.laos-festival.info)

NCGM 国際医療協力局 **NEW TOPICS**

NCGM は 4 月 1 日から「国立研究開発法人」に変わります

4 月 1 日、NCGM は名称が「国立研究開発法人 国立国際医療研究センター」に変わります。国立研究開発法人は、「我が国における科学技術の水準の向上を通じた国民経済の健全な発展その他の公益に資するため研究開発の最大限の成果を確保することを目的とする独立行政法人」です。国際医療協力局は、健康格差のない世界を目指して、開発途上国の保健医療に関する研究により一層力を入れていきます。また、技術協力プロジェクトの知見と成果を国際保健の向上に積極的に還元していきます。





国際機関

世界を助けるお金の活かし方

UN、WHO、WTO …テレビや新聞のニュースで見聞きする国際的な組織の名前。これらはすべて「国際機関」と呼ばれ、さまざまな国が国際社会の一員として加盟し、世界をより良くするために協力して活動しています。日本も多くの国際機関に関わりを持っていますが、実際にはどのような取り組みに貢献しているのでしょうか。

保健医療分野の国際機関には、国際社会から集めたお金で世界の健康問題の解決や途上国の保健医療の向上に取り組む組織があります。そこで働く日本人医師は、直接患者さんを治療する病院にはいないけれど、支援を本当に必要としている人のためにそのお金を効果的に活かして一人でも多くの命を救おうとしています。

国際機関

ってなんだ？

国際機関とは、多数国間条約（基本条約）や国際合意によって設立された、国を構成単位とする組織体で、国際社会の共通利益を継続的に達成するために活動する組織のことです。すべての国に加盟を開放している国連をはじめ、EU（欧州連合）のように地域を限定した組織や、保健医療や教育など分野を特定した組織もあります。

国際機関の運営資金は、主に加盟国からの出資金を財源としているんだよ。各国の出資比率は、一般的にその国の経済力によって違っているよ。



国際機関の種類

国際機関は主に4つのグループに分けられます。

国際連合 (UN)

国連の下部機関

国連開発計画 (UNDP) / 国連児童基金 (UNICEF) / 国連人口基金 (UNFPA) など

専門機関

世界保健機関 (WHO) / 国連教育科学文化機関 (UNESCO) / 国際労働機関 (ILO) など

その他の国際機関

経済協力開発機構 (OECD) / 国際原子力機関 (IAEA) / 世界貿易機関 (WTO) など

どんなことをしてるの？

たとえばこの4つの国際機関では…

WB (世界銀行 : World Bank)

加盟する途上国への開発資金援助を目的とし、途上国の発展段階や資金需要に応じて融資を行っています。[加盟国数：184カ国]

UNESCO (国連教育科学文化機関 : Educational, Scientific and Cultural Organization)

教育・科学・文化の交流を通じた平和・安全への貢献を目的とし、国際的な知的協力、途上国への教育分野の開発支援を行っています。[加盟国数：195カ国]

WHO (世界保健機関 : World Health Organization)

「すべての人々が可能な最高の健康水準に到達すること」を目的とし、保健医療分野に関する研究や技術協力を行っています。[加盟国数：194カ国]

OECD (経済協力開発機構 : Organisation for Economic Co-operation and Development)

世界経済の発展への貢献・途上国援助・自由貿易の拡大を目的とし、経済政策の分析や規制制度改革の促進を行っています。[加盟国数：34カ国]

保健医療分野の国際機関

グローバルファンド - 世界エイズ・結核・マラリア対策基金 -

保健医療分野を専門とする国際機関の1つに世界エイズ・結核・マラリア対策基金（通称：グローバルファンド）という組織があります。政府や企業など、国際社会から大規模な資金を調達し、その名にある三大感染症の予防、治療、感染者支援などの対策に取り組む途上国に資金を提供する基金です。

感染症対策の活動自体は、資金供与される各国が行い、グローバルファンドはその実績を分析・評価します。それによって資金が継続的に有効活用されることを保証する新しい援助の仕組みを実践しています。

主要ドナーと累計拠出額

政府ドナー		その他のドナー	
アメリカ	91億3547万ドル	ビル&メリンダ・ゲイツ財団	14億ドル
フランス	38億1718万ドル	Debt2Health	8588万ドル
イギリス	32億2503万ドル	シェフロン	5750万ドル
ドイツ	22億7945万ドル	UNITAID	2869万ドル
日本 	21億5622万ドル	国連財団を通じた個別寄付	1905万ドル
欧州委員会	16億2264万ドル	Idol Gives Back	1660万ドル

三大感染症の問題

エイズ・結核・マラリアは、世界で長期にわたって流行している病気で、現在も年間約300万人もの命を奪っています。犠牲者の多くは途上国で暮らす人々です。治療や予防の方法はありますが、費用や社会的・文化的な背景から、医療サービスが必要とする人に十分行き届かないという課題があります。感染症の流行は、労働力の減少、医療費の増加、教育機会の減少など、国の発展を大きく阻害する要因となっています。

グローバルファンドの 設立

2000年の沖縄サミットでG8首脳が一堂に会し、エイズ・結核・マラリアの撲滅に向けた活動資金を新設する必要性について話し合ったことをきっかけに、グローバルファンド（当時の名称：世界基金）が2002年にスイスに設立されました。

その資金は、先進国政府からの拠出金だけでなく、個人、企業、財団など、多くの寄付によって成り立っています。地球規模の感染症と戦うために、国際社会が協力し、本当に支援を必要としている人に迅速、かつ効果的にお金が使われるようにする仕組みなのです。

グローバルファンドの 目標

グローバルファンドは、三大感染症による死亡者と感染者を減らすことを目指して、「2016年までに1,000万人の命を救い、1.4億人以上の感染を防ぐ」という目標を掲げています。



日本も国際社会の一員として
たくさんお金を出しているよ。
世界の累計拠出額
ランキングでは
第5位だって！

グローバルファンドの 成果

グローバルファンドは2014年末までに約315億ドルを集めて、140カ国以上の三大感染症対策の取り組みを支援してきました。たとえば2013年は、約39億ドルの資金を提供しました。それは世界中の途上国支援の貴重な資金源として活用され、エイズ対策では20%、結核対策では75%、マラリア対策では67%を占めています。



新規発見され治療を受けた
結核患者数

1190万人

2014年7月時点



治療を受けている HIV 感染者数

660万人

2014年7月時点



マラリア感染予防のために
家庭に配布された殺虫剤処理蚊帳数

4億1000万張

2014年7月時点



これまで集めた資金

315億ドル

2014年末時点

グローバルファンドと 日本

日本政府は、グローバルファンドの設立時から積極的に参加し、運営面でも重要な役割を担っています。

これまでに21億5,622万ドル（約2,173億円）を拠出し、大きく貢献してきました。理事会では、単独議席を持つ4カ国の1つです（日本以外は、アメリカ、フランス、ドイツ）。戦略的な資金投資を実現する戦略投資効果局の局長をはじめ、日本人6名が職員として活動しています。

また、国際協力機構（JICA）やNGOがグローバルファンドの資金を活用して、途上国で技術支援を行っているほか、企業も寄付や製品・サービスを通じて、グローバルファンドの資金供与を受けた途上国を支援しています。

本当に必要な人のためにお金が活かされるには？

グローバルファンド技術審査委員の仕事

グローバルファンドは、「受益国の主体性の尊重」という考え方で資金供与を行っています。三大感染症対策にいかに取り組みべきかを、お金を出す側が決めるのではなく、資金を受ける国の人たちが自分たちで決めて実行していくことができます。その一方で、その国は資金を活用して成果を出すという責任を負うことにもなり、希望すればどんな国でも資金を与えられるというわけではありません。グローバルファンドの外部にある独立した審査委員会に所属する技術審査委員の厳しい審査を通過した国だけが支援を受けられるようになっています。

グローバルファンドから資金供与を受けるには、この先3年間でどのような感染症対策を実施したいかを申請書にまとめて、決められた期間に提出しなくてはなりません。それを技術審査委員会のメンバーがグローバルファンドが設定した条件に基づいて審査して決定しています。

技術審査委員ってどんな人？

技術審査委員会は、常任メンバーとして4～8名の三大感染症対策の専門家と、国際保健の分野で幅広い経験を持つ約20名の専門家で構成されています。技術審査委員は、特定分野の深い専門性よりも、現場での幅広い経験と知識に加えて、議論に積極的に参加して意思決定に貢献できることが求められます。国籍もさまざまで、職業も医療従事者に限らず、人類学、薬学、法律などさまざまな分野で活躍する人が集まっています。メンバーは2～3年ごとに公募によって入れ替わり、原則4年間の任期で活動します。

どんなふうに審査するの？

NCGM 国際医療協力局の専門家も2010年から技術審査委員を務めました。委員になると中立性を要求されるため、出身国や居住歴のある国の申請書は外され、どの国の申請書を担当したかを口外することも禁じられます。

当時、審査は1年に1回審査会合が行われる「ラウンド制」というプロセスがとられていました。1回に150もの申請書が提出され、それぞれ本文だけで100ページを超えるボリュームがあります。1つの申請書に委員4名がグループになって審査するようになっていました。



2週間の審査合宿！

審査会合は、常任メンバーを中心に約40名がスイス・ジュネーブ近郊のホテルに2週間滞在し、ホテル内の会場で行われます。たくさんの会議を経て、申請書に書かれた感染症対策の内容が、グローバルファンドが投資すべきものかどうかを検討し、申請書を「承認」「条件付き承認」「再申請勧奨」に分類していきます。

過去の審査結果や、これまでの支援の成果、また1つの国から複数の申請書が出ている場合の一貫性などを1つひとつチェックして議論します。その結果、小グループでの判断が全体ミーティングで覆されることもあります。こうして決定した審査結果を、今度は24時間以内にグローバルファンドの事務局に提出しなくてはなりません。この作業を集中的に繰り返す、合宿のような2週間なのです。



審査会合の1日

午前 小グループ・ミーティング

4名グループで話し合い、申請書を承認するかどうかグループの判断をまとめます。

午後 全体ミーティング

小グループの意見を発表し、全体で議論して審査結果を決定します。

夕方 - 夜 審査結果のまとめ

審査結果をテンプレートをを用いてまとめて事務局に提出します。

夜 - 早期 自室で申請書の読み込み

山積みの申請書を読み、審査基準に基づいて、申請書の強み・弱みを分析します。

審査のポイントはココ！

1. 感染症対策のアプローチが正しいか
2. 感染症対策が実現可能か
3. 成果が持続する可能性があるか
4. 感染症対策が費用に見合っているか

技術審査委員の役割

限りある資金が本当に必要としている人に効率良く提供されるために、技術審査委員の厳しい審査が重要な機能を果たしています。1つの申請書の申請額は数千ドルから数億ドルと莫大なので、委員の責任は相当大きいと言えます。その審査結果は、その後の理事会でほぼそのまま通過するほど信頼性の高いものとなっています。

お金を届ける新しいプロセス

グローバルファンドは2014年から、これまでの「ラウンド制」に替わる資金供与の新しいビジネスモデルを導入しました。これにより年1回だった申請機会が、各国の戦略計画に合わせていつでも申請できるようになったり、申請書がより簡潔な書式の「コンセプト・ノート」に変わったりと様々な試みが開始されました。また、各国の状況に応じた支援体制を整え、その国の保健医療のシステム全体の改善を考えた支援にも力を入れています。

新しい資金供与モデルにおいても、技術審査委員は三大感染症の撲滅に向けて、引き続き各国の質の高い取り組みを約束する役割を期待されています。

グローバルファンドの技術審査委員として任期を終えた永井真理さん（医師・国際医療協力局の専門家）。審査会合に出席するために訪れたジュネーブでは、ホテルに到着して与えられた山積みの申請書を見て途方に暮れてしまいそうになったとか。技術審査委員の活動を振り返ってみると、これまでの国際保健のさまざまな現場での経験が活かせたと感じるそうです。「申請書を多角的に読んで、提供した資金が感染症の課題に成果をあげる一方でその国の保健システムを壊すようなことがないか、全体のバランスを常に考えました。」

永井さんはこの春から再び海外へ。フィリピンにある世界保健機関（WHO）の事務局で新たな任務に取り組みます。



技術審査委員の永井真理さん（左）と戦略投資効果局長の國井修さん（右）

永井さんはラジオ番組「グローバルヘルス・カフェ」第10回「世界基金—お金を届けるシゴト—」にも出演しています。（p22）
國井さんのインタビューはp12～

保健医療分野の国際機関

世界保健機関（WHO）

世界保健機関（WHO）は、保健医療分野の国際的な活動を主導し、調整を図る機関です。スイス・ジュネーブに本部を持ち、全加盟国194カ国で構成されています。NCGM国際医療協力局は、毎年1回開催される世界保健総会に日本代表団のメンバーとして参加しています。また、アジアやアフリカなどの地域事務所にも専門家を派遣し、途上国の保健医療の改善に貢献しています。

世界保健総会

世界保健総会は、毎年5月にスイスにある国連欧州本部で開催されるWHOの最高意思決定の会合です。194カ国の代表団が集まり、事業計画や予算の決定をはじめ、多くの決議を採択する場となっています。日本代表団として参加した国際医療協力局の専門家は、数カ月前から準備した方針に基づいて様々な議題の検討に参加します。



←世界保健総会に出席した小原ひろみさん（右）と永井真理さん（左）。（いずれも医師・国際医療協力局の専門家）

小原さんがWHO母子保健担当官として赴任していたフィリピンでの生活は「ハケン専門家日記」でも紹介しています。（p20～）

WHO 西太平洋事務局（WPRO）

WPROは、日本を含む37加盟国を担当し、西太平洋地域の公衆衛生対策に取り組んでいます。

国際医療協力局の専門家は、2011年から3年間、フィリピンのマニラを拠点に、WPROで女性と子どもの健康を守る活動に従事しました。任期中は、特に改善の必要性の高い加盟国であるカンボジア、ラオス、パプアニューギニア、フィリピン、中国、ソロモン諸島、ベトナムを支援しました。これらの国々の保健医療を改善するために必要な政策や戦略の策定を支援したり、お母さんと赤ちゃんのための医療ケアの質を改善するプログラムを実施したりと、WHO本部や国別WHO事務所と協力しながら各国の保健省を支援しました。

限りある資金で より多くの命を救うために できること

人の命を救うために使える資金は限られています。世界中にいる本当に支援が必要な人のために、どう活かしていけばいいのでしょうか。世界・地域・国家レベルの政策や方針の策定に豊富な経験を持つ國井修氏に聞きました。

國井 修（くにい おさむ）

世界エイズ・結核・マラリア対策基金
（通称：グローバルファンド）
戦略投資効果局長



目標は 2016 年までに 一千万人の命を救うこと

NEWSLETTER (NL) グローバルファンドはどのようなことを目指して活動している組織なのでしょうか。

國井 グローバルファンドの目標は、地球規模課題と言われていたエイズ、結核、マラリアの3つの疾患の感染者と死亡者を減らすことにあります。2012年から2016年までの5年間で1000万人の命を救うという目標を掲げています。それを達成するためにどうしたらいいか。グローバルファンドができてから12年くらいですが、今後の資金がどんどん増えるわけではありません。お金を使って結果を出すだけではなく、資金をいかに効率よく使って効果を高めるかを考えて活動しています。

NL 資金を無駄なく効果的に使うことを重視されているということですね。

國井 今は、以前と比べて年間のHIVウイルス感染者数や死亡数が4割も減り、効果は上がっています。むしろ減らすだけではなく、撲滅の段階にきています。そういった意味では、もっと戦略的にホットスポット（感染率の高い地域や人口集団）をたたいていくべきです。

NL 國井さんがグローバルファンドに入って1年半が経ちますが、主にどのような仕事をされているのでしょうか。

國井 戦略投資効果局長としての私の仕事の1つは、戦略や方針を決めていくことです。扱うお金はすごく大きいですが、事務局の人数を最小限にして、現場に多くの資金が迅速に流れるような仕組み作りをしています。毎

週月曜日に幹部会議を行い、多くのことがそこでも決まります。

仕事は非常に面白いですよ。今、グローバルファンドでは革新的なメカニズムを作り、実施し始めています。自転車操業のように忙しいですが、前向きで楽しいです。

NL 革新的というのはどのようなことですか。

國井 今、我々は「新たな資金供与モデル」という新しいビジネスモデルを開始して、効率や効果を高める戦略的な投資をしています。グローバルファンドの強みは、各国の事業からデータをきちんと集め、そのパフォーマンス（実績）に従って、資金を検討していきます。逆に言うとパフォーマンスが悪いと資金もつきにくくなるわけです。

実際には数えることのできない 救った命を数字で捉える仕組み

NL 各国が抱える課題への取り組みの実績に合わせて資金が提供されるんですね。

國井 資金は各国の疾病負担や経済状況に応じて割当てられますが、各国の執行能力や実績も重要になるわけです。

“人の命をどれだけ救ったのか”を実際に測ることは難しいのですが、最終的な成果としてこれを数字で捉えることが重要です。私が管轄する局には5つの部門があり、中でも「戦略情報部」は様々な国から報告される情報やデータを分析して、具体的にどのくらい命を救ったのか、どのくらい感染を減らしたのかを推計し、その成果を公表していくということを行っています。

もう1つは「技術支援・協調促進部」とい

う部門です。

エイズ・結核・マラリアの3疾患や、保健システム、母子保健などの専門家がおり、事務局内の国別チームなどに様々なアドバイスを提供しています。さらに、WHOやUNAIDS、UNICEFなどの国際機関や先進国政府の援助機関などと協調・協働する役割も担っています。

途上国の能力を高めて 保健医療情報システムを構築する

NL 色々な部門を統括しているんですね。

國井 はい。「技術支援・協調促進部」には「モニタリング評価・分析チーム」もあります。各国からデータを集め、目標に対する達成度などをモニターして評価する役割があります。以前は途上国からデータを得るのは困難でしたが、最近はずっと信頼性のあるデータが報告されるようになってきました。

最終的に、重要なのはグローバルファンドにデータを送ることではなく、各国で情報システムを確立して、自らの事業を自らモニタリング評価して、事業の成果を高めていくことです。ですから、新しい資金供与モデルでは、いかに途上国の能力を高めて、保健医療情報システムを構築するかということにも焦点にしています。

最近では「成果に基づいた資金供与」という方法もあり、これまでのように100以上のデータを報告させてモニタリングするのではなく、執行能力・管理能力の高い国には成果に基づいた10以下のデータに絞り、成果が出ていれば資金供与を続け、報告義務を課さず、自己管理をしてもらうという方法です。

みんなで作り上げる仕組みに 必要な客観的視点

NL 他にはどんな部署がありますか。

國井 「コミュニティー権利ジェンダー部(CRG)」「資金アクセス部」「技術評価委員会(TERG)支援チーム」というのがあります。

グローバルファンドは「21世紀型パートナーシップ」とも呼ばれ、“みんなで一緒に作っていく”仕組みがあります。CRGは、政府や国際機関だけでなく、現地の市民団体、患者組織などの事業への参加を促進し、人権やジェンダーなど、疾病対策において重要ながら無視されやすい課題にも取り組む部門です。さらにTERG支援チームは、グローバルファンドの事業や仕組みなどを評価・助言する外部の独立した専門家委員会(TERG)と事務局をつなぐチームです。グローバルファンドにはTERG以外にも外部の人々が参加してグローバルファンドを支える委員会やグループがあります。

いかに効率・効果的にグローバルファンドの資金を動かすか、世界が期待し、協力してくれています。

NL 本当に必要なところに、なおかつ、有効活用されるところに資金が届くような仕組みをお持ちなんですね。

國井 よい戦略や仕組みを作っても、結局は各国の政府やNGO、市民団体などが計画・実施をするわけですから、そう簡単に思い通りの成果に結びつかないこともあります。本当に事業がうまくいっているのか、目標が達成されるのか、されなければ何が問題なのか、などをモニタリング・評価し、様々なパートナーと協力・協働する必要があるわけです。

各国の状況に対し現実的な指標で クオリティを保証する

NL その中で國井さんが仕事を進める上で心がけていることはありますか。

國井 グローバルファンドが支援している120カ国以上の国々はそれぞれ状況が異なるので、一緒くたに捉えて同じ方法を適用するのではなく、より状況にあった、また柔軟な対応をすべきだと思っています。例えばアフガニスタンのような脆弱な国家とタイのような安定した中進国では、疾病の流行状況もその執行・管理能力も全く異なります。

よりよい成果をあげるには、国の状況によって異なった仕組み、より効率・効果の高い方法を見つけていかなければならないと思っています。

それから、「質の保証」も重要です。サービスを80%の人々に提供したからといって満足すべきではなく、サービスの質はどうだったか、それによって本当に人々の感染や死亡を防ぐことができたのかを突き詰めなければならない。時に、サービスの普及率が向上しただけで満足してしまう国も多いからです。





保健医療システム全体を 戦略的に改善していきたい

NL 國井さんは、これまで数々の国際協力の現場で活動されていますが、そういった現場にお金を届ける今のお仕事の魅力はどんなところにありますか。

國井 私の担当部局では、資金を3つの感染症対策のみに縦割りに使うのではなく、より包括的な保健医療システム強化につなげるにはどうしたらいいかといった戦略作りもしています。

最終的には、途上国が自立して援助が必要なくなるのが目的ですから、その国のシステムを強化していくことは重要です。現場には様々な問題があるので、システム強化は他の健康問題解決にもつながります。自分が現場でグローバルファンドに期待していたことを具体化できるのではと思っています。

NL 今はジュネーブにいらっしゃるんですね。

國井 はい。ジュネーブを拠点に仕事していますが、自分の人生設計や夢には入ってなかったですね。住んでみると、なかなかいいところですよ。特に山や湖、自然は最高ですね。

NL 國井さんのFacebook はきれいな景色の写真であふれていますね。

國井 あれだけみると仕事していないみたいでしょう（笑）

日本からグローバルに戦える 人材が育ってほしい

NL 最後に、これから国際協力の分野に進みたい方にメッセージをお願いします。

國井 グローバルに活躍できる日本人がもっと育ってきてほしいと思っています。

前職のユニセフを含めこれまで多くの人材選考に関わってきましたが、国際機関のポストに応募する日本人の絶対数は少ないし、応募してもなかなか合格しない。グローバルな

戦いに勝っていける人材があまりいませんね。

文化も価値観も違う多国籍の人々と議論を戦わせながら物事を作って行くわけです。日本とは全く正反対の仕事の仕方があり、グローバルな意味でのコミュニケーション能力が求められます。私も今でも苦労しています。若いうちにグローバルな環境に身を置いて、経験しながら学んでいくといいと思います。諦めずに何度でもトライして、どんどん世界の現場に出てきてほしいと思います。

NL どうもありがとうございました。



國井 修（くにい・おさむ）

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（通称：グローバルファンド）戦略投資効果局長
医師、公衆衛生学修士（ハーバード大学）、医学博士（東京大学）。国際緊急援助 NGO の副代表として緊急援助に従事した後、国立国際医療研究センター国際医療協力局の専門家として開発途上国の保健医療改善のプロジェクトに従事。東京大学、外務省、長崎大学、ユニセフ（ミャンマー、ソマリア）などを経て現職。

参加者募集中!

NCGMの
国際医療協力局

研修で学ぼう!!

2015

明日のグローバル保健医療人材をつくる

国際保健医療協力研修

国際保健医療協力の基礎を 多角的に学べる充実コース

「国際保健医療協力研修」は、将来の国際保健医療協力を担う日本人の人材を養成するためのより実践的な研修。専門家による「講義」、問題解決を戦略的にアプローチするPCM手法（Project Cycle Management）を学ぶ「計画立案実習」、海外で国際協力の現場を体験する「フィールド研修」の3部構成によって国際保健医療協力の基礎を多角的に学べるコースです。国際保健医療協力の知識を習得するとともに、体験的に実践力を養い、グローバル保健医療人材を育成します。

研修期間 [14日間]

2015年9月15日(火) - 9月28日(木)

講義：9月15日(火) - 17日(木)

計画立案実習：9月18日(金) - 19日(土)

フィールド研修：9月20日(日) - 27日(日)

まとめ：9月28日(月)

場所

講義 / 計画立案実習：国立国際医療研究センター
研修センター4階

フィールド研修：ベトナム社会主義共和国(予定)

募集人数 20名程度

参加費 約25万円* (税込)

旅費、宿泊費、教材費および諸経費

*研修中の食費等の生活関連費は別途自己負担となります。

申込締切 2015年7月23日(木) 24時

フィールド研修 inベトナム

講義



計画立案
実習



フィールド
研修

国際保健医療協力集中講座



3日間のプログラムに参加して
国際保健キャリアへの扉を開こう

7月18日(土) ~ 20日(月・祝)

国立国際医療研究センター
研修センター4階

【講義内容】

国際保健医療概論 / 災害と公衆衛生危機 / 国際保健活動を推進する機関 / 社会的企業・BOP / プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション / 保健システム概論 / 母子保健概論 / 社会的調査法(量的調査) / 疾病対策概論 / 社会的調査法(質的調査)

【定員】40名

【受講料】3万円

【申込締切】2015年6月11日(木) 24時

集中講座と研修のお申し込み・詳細は…

国立国際医療研究センター
国際医療協力局ホームページ「イベント情報」まで
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/

【お問い合わせ】

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際医療協力局 研修課 (担当：田鍋)

TEL：(代表) 03-3202-7181 (内線) 2704 / (直通) 03-5273-6826

Email：kensyuka@it.ncgm.go.jp



ラジオ NIKKEI

毎月第3火曜日
17:10 ~ 17:25
放送
(隔月で内容が新しくなります)

グローバルヘルス・カフェ

コーヒーの香りが漂うカフェを舞台に
世界の健康問題についてマスターと常連客が語り合う
ラジオ番組「グローバルヘルス・カフェ」。

常連客として各回に登場するスペシャルゲストは
NCGM 国際医療協力局の専門家たちです。
途上国の保健医療事情や国際協力の現場について
分かりやすくお話しします。

- 第12回「もうひとりじゃないへき地の新米助産師」
- 第11回「安全血液」
- 第10回「世界基金—お金を届けるシゴト—」
- 第9回「行きたくなくなる病院をつくる」
- 第8回「お母さんの声が聴きたい」
- 第7回「中学生と考える『ひとの命』」
- 第6回「病院から青空の下へ—地域とつなぐ HIV 治療—」
- 第5回「看ることと育てること」
- 第4回「整理・整頓で幸せになる！」
- 第3回「国づくりは人づくり—保健人材について」
- 第2回「ワクチン—命を守るクスリ」
- 第1回「命が生まれる時」

オンデマンドでいつでも聴ける！
詳しくは番組ホームページへ
ラジオ NIKKEI「グローバルヘルス・カフェ」
<http://www.radionikkei.jp/globalhealth-cafe/>

出演：マスター（明石 秀親 / 国立国際医療研究センター国際医療協力局）
 ヨーコ（香月よう子 / フリーアナウンサー）
企画協力：国立国際医療研究センター 国際医療協力局



海に向こうの風景

仕事で訪れたカロモは、南部の小さい田舎町である。植民地時代、ここに北ローデシアの行政の中心が置かれたことがあると聞けば皆が驚くくらい、今はとりたてて何もない街である。

はや日は西に傾いてきていた。途中でおばあさんが心配げに声をかけてくれた。

「どこへいくんだい？この先には店はないよ。」

「ちょっと散歩してるんですよ。診療所まで行ったらもどります。」

おばあさんは安心したようににっこり笑って去って言った。

両側に広がるとうもろこし畑を抜けて行くと、マワヤ診療所が見えてきた。青年海外協力隊の看護師さんががんばっているところだ。線路を越えて診療所まで行き、そこで引き返すと、遠くから自転車に乗った看護師姿のザンビア人男性が大きく手を振りながらこちらに近づいてきた。これから夜勤の仕事なのか、それとも急な仕事で呼ばれたのか？ あいさつを交わすと、彼はいやそうな顔ひとつせず、診療所へ入って行った。

帰りは来た道を戻れば多少暗くてもなんとかかなるだろうと、たかをくくっていた。しかし、情けないことに集落を抜けたあたりで道がわからなくなった。どちらの道だったか悩んでいると、学生服を着た二人の女の子が声をかけてくれた。

「道に迷ったの？」

凶星である。

「そうなんだ。学校の方にもどりたいんだけど。」

「それならこっちの道よ。」

やさしい声にほっとした。途中まで一緒に歩きながら話をしたところ、高校3年生の子達であった。英語が通じると国とはいえ、見知らぬ外国人に気楽に声をかけて助けてくれる。日本の高校生の子達に同じようなことができるだろうか？二人と別れたあと、そんなことを考えながら宿へと急いだ。

カロモの夕暮れ時。それは、とりたててなにもないこの町にも、愛すべき人々がいることを教えてくれる時だった。

やはり「町とは人である。」この町が好きになった。 <完>

ザンビア共和国
カロモ

宮本英樹
医師・NCGM国際医療協力局の専門家
'13年10月よりザンビアのHIV/エイズの患者の治療のためのプロジェクトに従事。

EVENT INFORMATION

「国際保健」「国際協力」って何だろう？

国際保健基礎講座 2015

1回だけの
参加もOK!参加費
1000円

現場で活躍する国際協力の専門家と一緒に開発途上国の健康問題を学ぼう

国立国際医療研究センター 国際医療協力研修センター 3F にて開催

第1回 国際保健とは

5月23日(土) 13:00～16:00

なぜ国際医療協力が必要なのか。現場では何が起きているのか。開発途上国を取り巻く問題を考えてみよう。

NCGM 国際医療協力局
ホームページ「イベント情報」
よりお申し込み受付中!www.ncgm.go.jp/kyokuhp

第2回 災害と公衆衛生危機

6月27日(土) 13:00～16:00

災害や感染症のアウトブレイクなど、人の健康を脅かす危機における援助活動について考えてみよう。

事務局

国立国際医療協力センター
国際医療協力局 研修課

TEL: 03-6228-0327(内線 2717)

Email: kensyuka@it.ncgm.go.jp

<ご寄附のお願い>

NCGM 国際医療協力局では、保健医療分野の国際協力活動の充実等を目的とする寄附のご協力を皆さまに広くお願いしております。ご寄附のお申し込みは、下記の連絡先より国際医療協力局 寄附担当までご連絡ください。

NEWSLETTER vol. 1 2015

2015年4月1日発行

国立国際医療研究センター 国際医療協力局

National Center for Global Health and Medicine
Bureau of International Health Cooperation

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

tel: (03)3202-7181 fax: (03)3205-7860

info@it.ncgm.go.jpwww.ncgm.go.jp/kyokuhp/

イラスト(ハチP)・漫画 井上きみどり

©2015 National Center for Global Health and Medicine ALL RIGHTS RESERVED.